

Strategic Focus on Innovation for Sustainable Growth

December 2011

Hirokazu Hashimoto

President and Group CEO

Anritsu Corporation



TSE code : 6754
<http://www.anritsu.com>



注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

1. 事業概要
 2. モバイル計測ビジネスのトレンド
 3. モバイル計測ビジネスにおける強み
 4. R&D・製造市場のモバイル計測ビジネスの相違
 5. グローバルな事業拠点
 6. 中期経営計画 GLP2012 と Anritsu 120 (2010年4月発表)
 7. 計測事業の業績推移
 8. 計測事業の収益性の変遷
 9. 競合他社との営業利益率比較
- Appendix

1. 事業概要

2011年3月期売上高(連結) : 779 億円

(2011年度H1: 446億円, 2011年度(見通し): 875億円)

計測事業

開発・製造・建設・保守用

- ▶ モバイル市場
- ▶ ネットワーク・インフラ市場
- ▶ エレクトロニクス市場



産業機械事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機



情報通信事業

- ▶ IPネットワークシステム



計測 69% →(FY2011H1:76%)			産業機械 16% →(16%)	情報 5% →(2%)	その他 10% →(5%)
モバイル 30% →(50%)	ネットワーク・インフラ 40% →(30%)	エレクトロニクス 30% →(20%)			

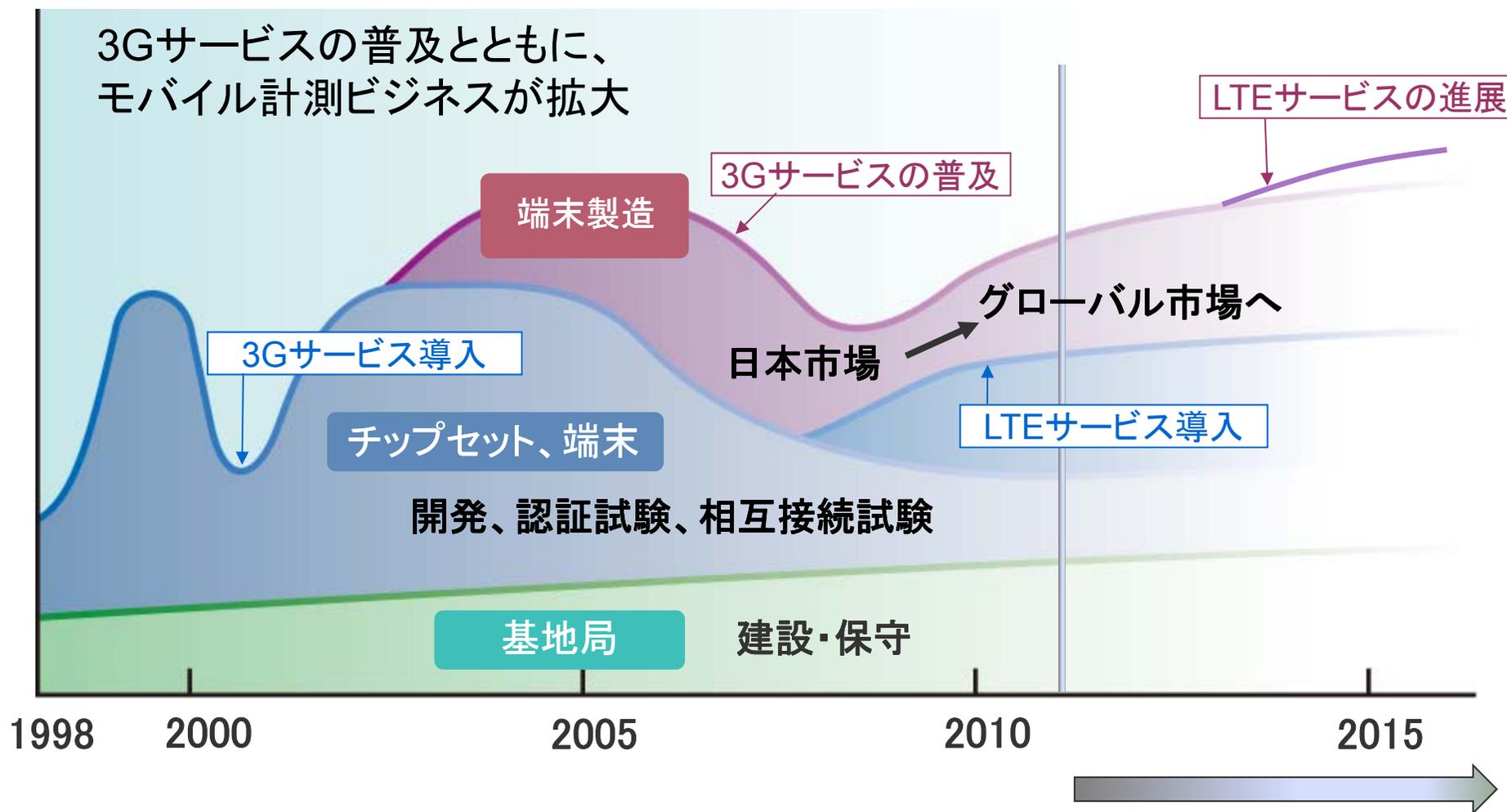
(計測事業 地域別売上比率)

日本 30% →(25%)	米州 30% →(25%)	EMEA 20% →(20%)	アジア他 20% →(30%)
------------------	------------------	--------------------	--------------------

():2011年度H1

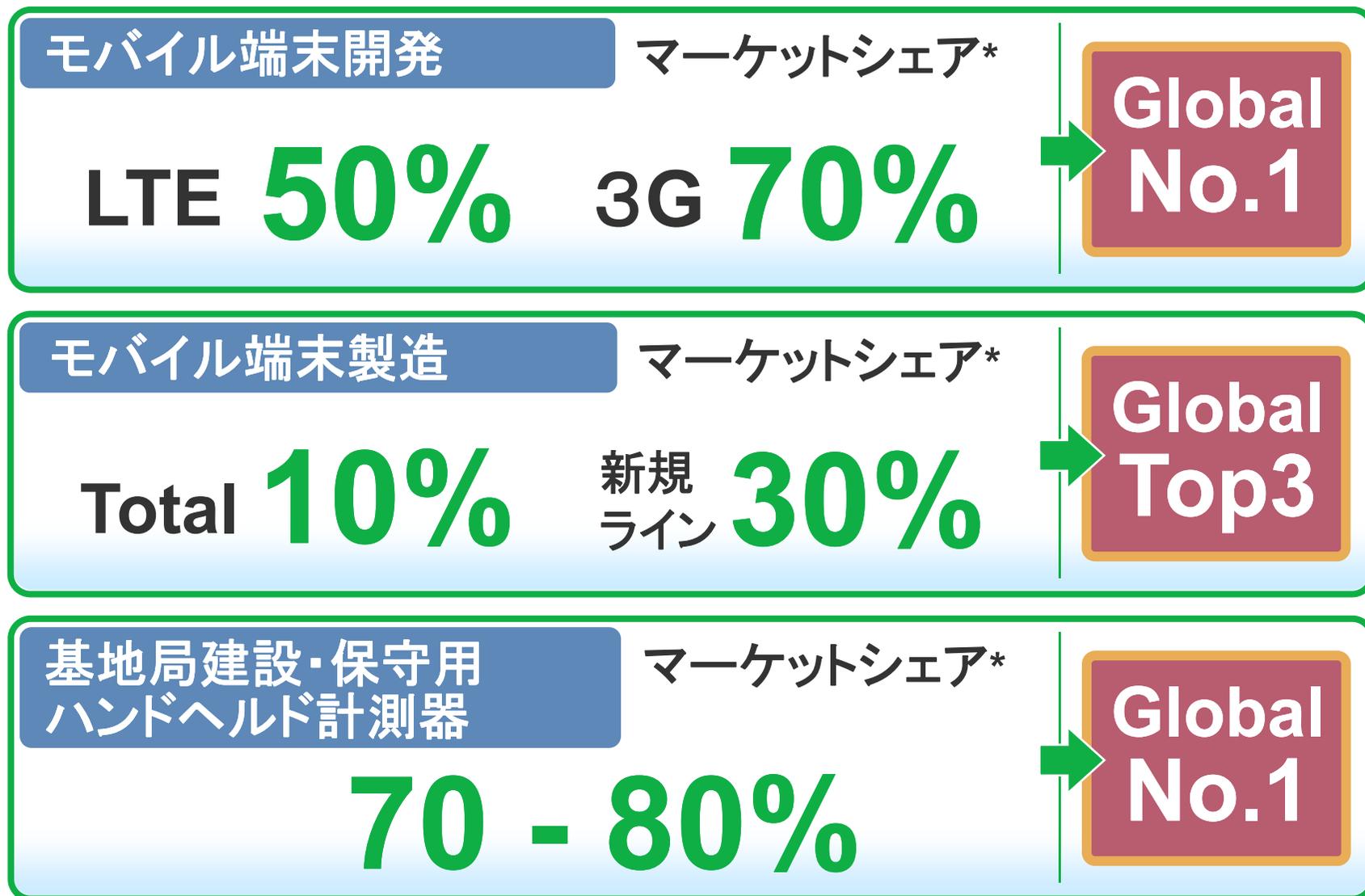
2. モバイル計測ビジネスのトレンド

モバイル計測市場(2010年、当社推定):1,000億円 (製造:700-800億円、R&D:200-300億円)



3. モバイル計測事業における強み

*当社推定

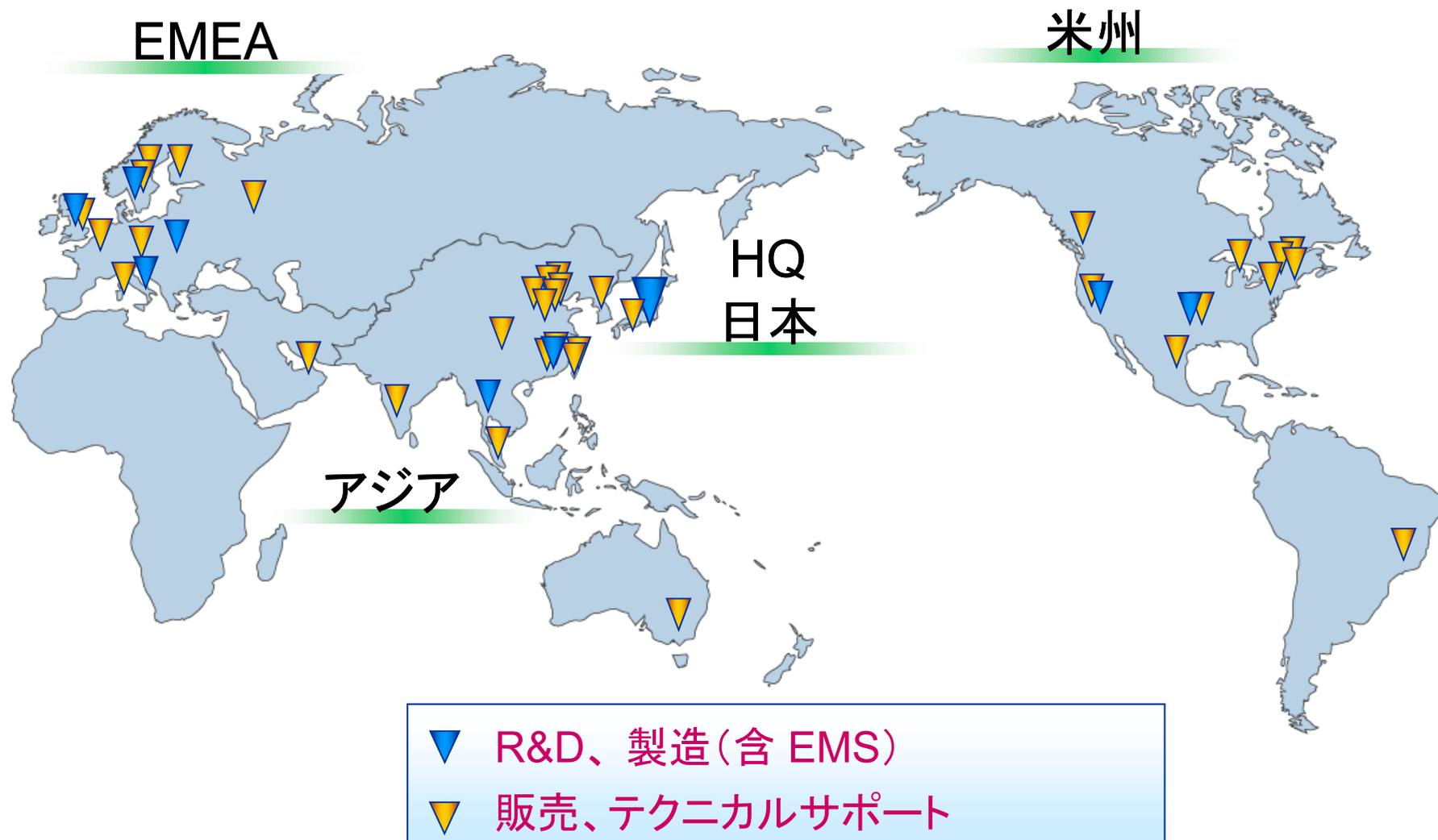


4. R&D・製造市場のモバイル計測ビジネスの相違

	R&D市場			端末製造市場	
分野	コア開発	端末認証・ 相互接続試験	オペレータ 受入試験	専用 ワンボックス テスタ	汎用計測器 (専用ソフトウェア)
主要 通信規格	LTE (FDD-LTE, TDD-LTE)			2G/3G/3.5G (GSM/EDGE, CDMA, W-CDMA, HSPA, TD-SCDMA)	
顧客	チップセット/ 端末ベンダー	チップセット/ 端末ベンダー、 テストハウス、 通信事業者	テストハウス、 通信事業者	端末ベンダー、 EMS(elec. mfg. services)	
地域	米国, 欧州, 日本, 韓国, 中国			アジア	
アンリツの 優位性	◎			○	×



5. グローバルな事業拠点



6. 中期経営計画 GLP2012 と Anritsu120 (2010年4月)

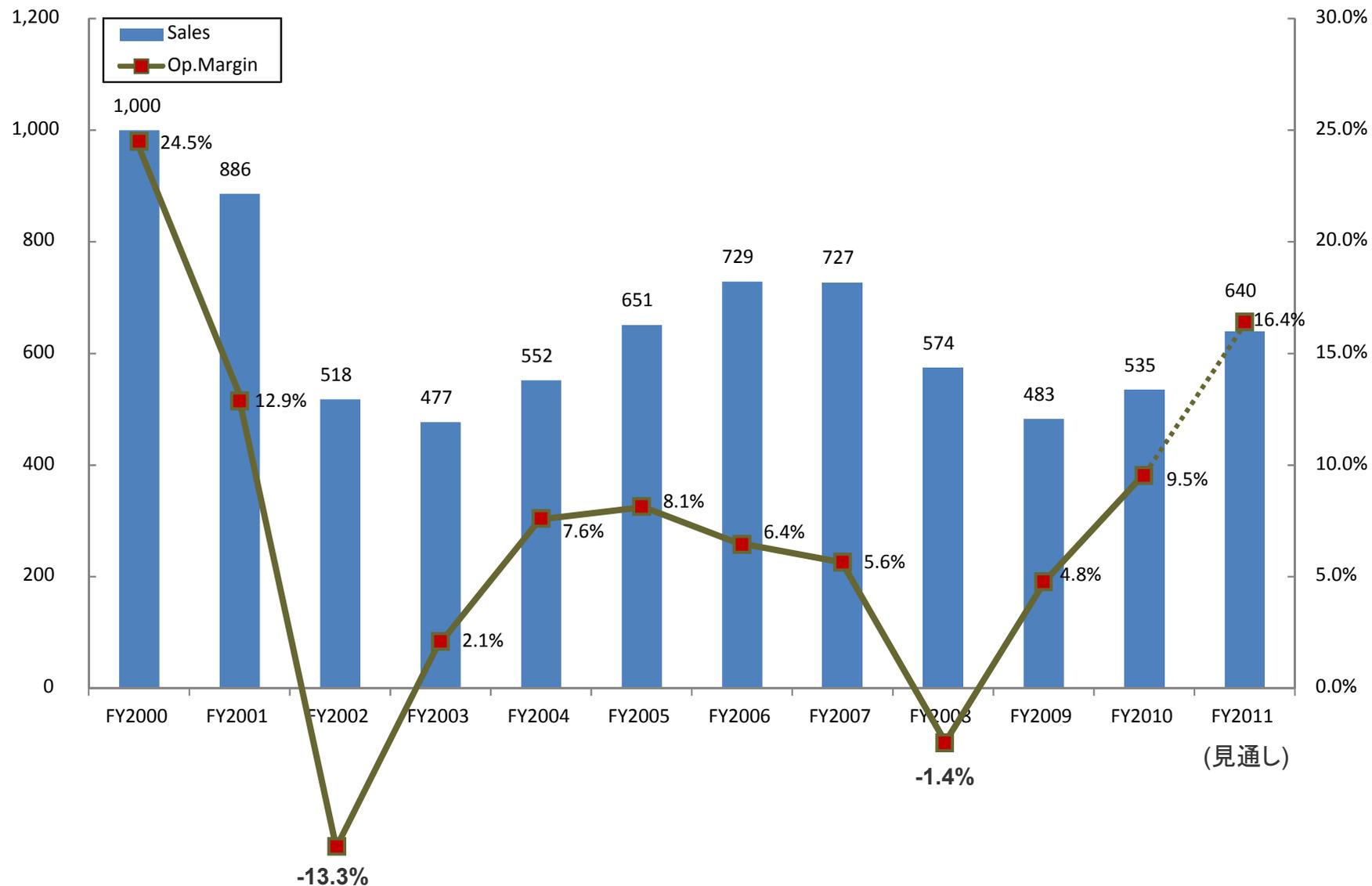
(Billion Yen)

		FY2010		Revised in Oct.2011		Planned in Apr.2010			
				FY2011		FY2012		FY2014	
		Act.		Est.		GLP2012		Anritsu120	
Sales		77.9		87.5		90.0		100.0	
Ope.Inc.		7.0	9%	11.7	13%	9.0	10%	12.0	12%
Net Inc.		3.1	4%	7.0	8%	4.5	5%	6.0	6%
ROE		7.9%		>10%		10%		12%	
ACE*		1.9		>2.0		2.0		4.0	
T&M	Sales	53.5	69%	64.0	73%	61.0	68%	70.0	70%
	Ope.Inc.	5.1	9%	10.5	16%	6.0	10%	8.5	12%
Industrial Automation	Sales	12.3	16%	14.0	16%	14.5	16%	15.5	16%
	Ope.Inc.	0.7	5%	0.7	5%	1.1	8%	1.7	11%
Info.& Com.	Sales	4.1	5%	4.0	5%	6.0	7%	6.5	7%
	Ope.Inc.	0.1	2%	0.0	0%	0.5	8%	0.7	11%
Others	Sales	7.9	10%	5.5	6%	8.5	9%	8.0	8%
	Ope.Inc.	1.7	21%	0.5	9%	1.4	16%	1.1	14%

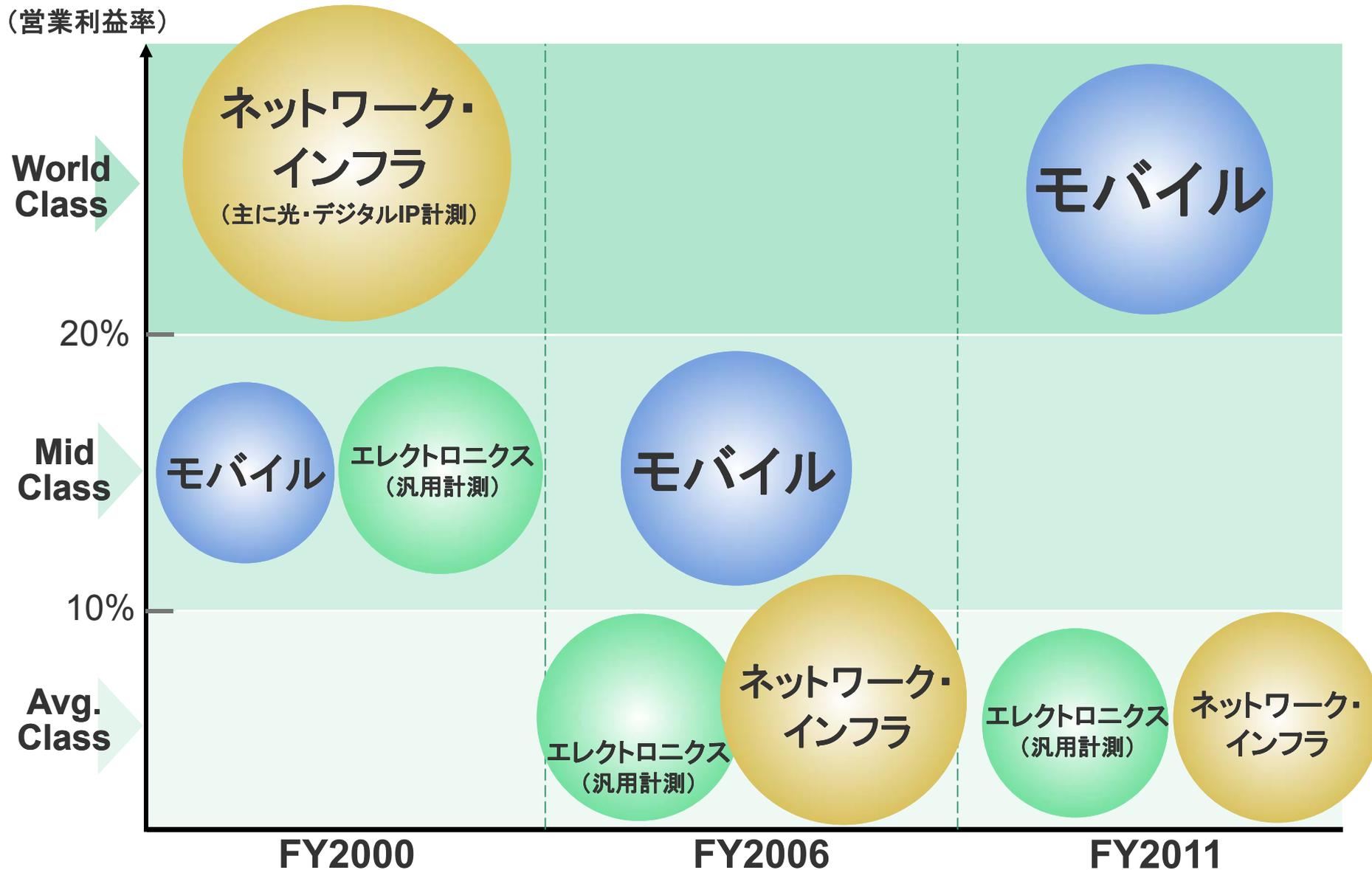
ACE (Anritsu Capital-cost Evaluation): 税引後営業利益 - 資本コスト

7. 計測事業の業績推移

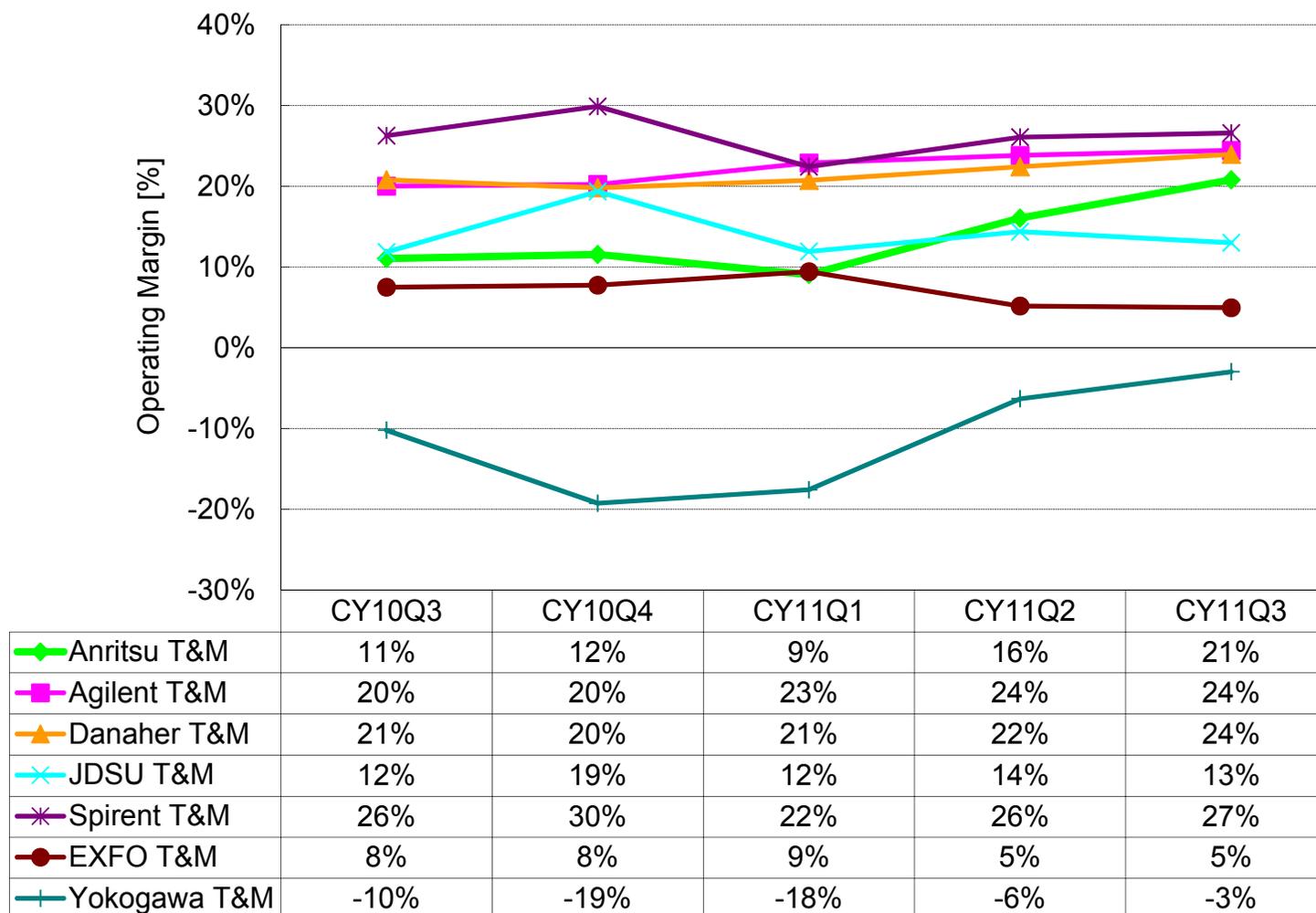
(億円)



8. 計測事業の収益性の変遷



9. 競合他社との営業利益率比較

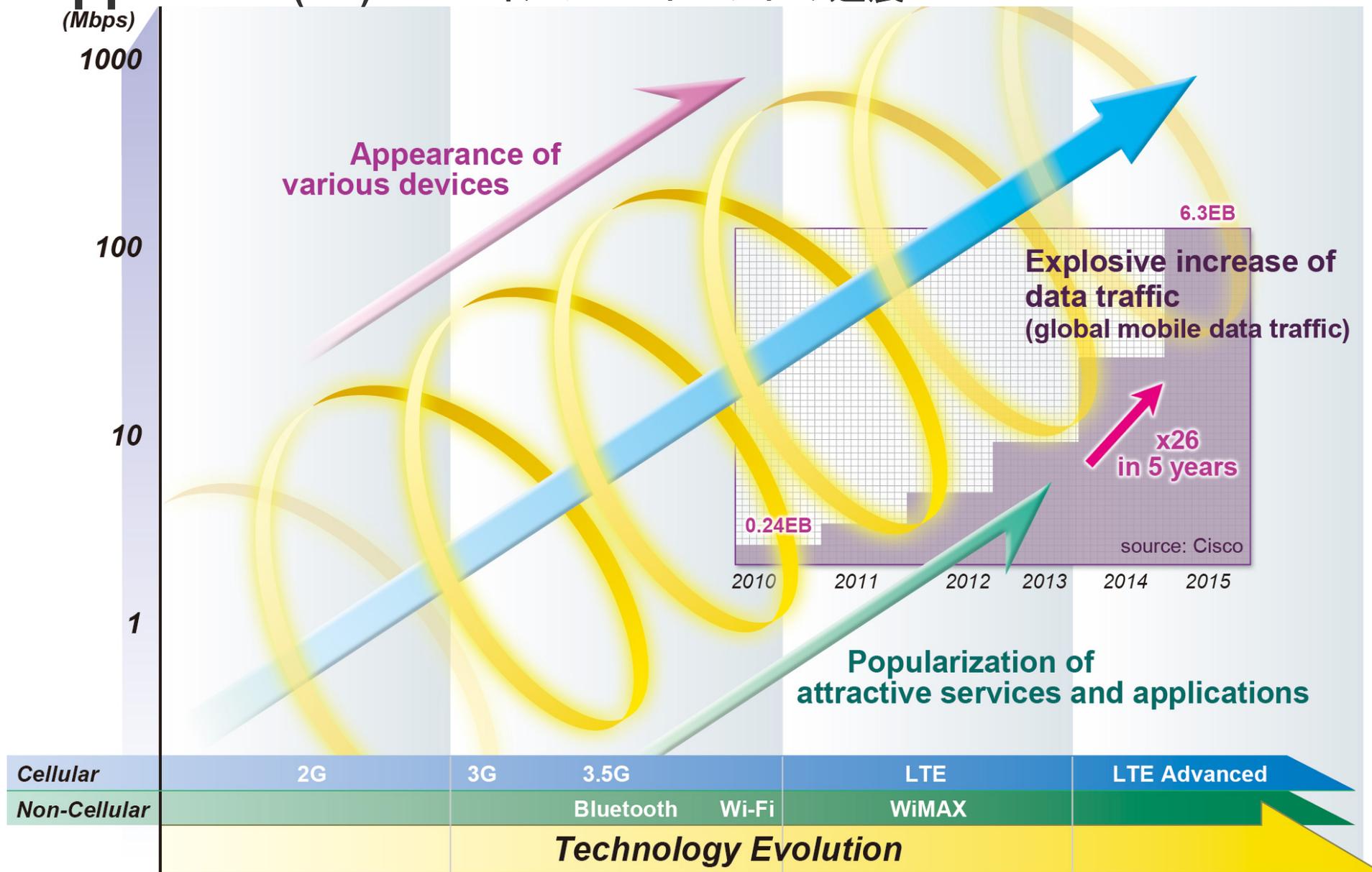


Note: Rohde&Schwarz は非上場企業

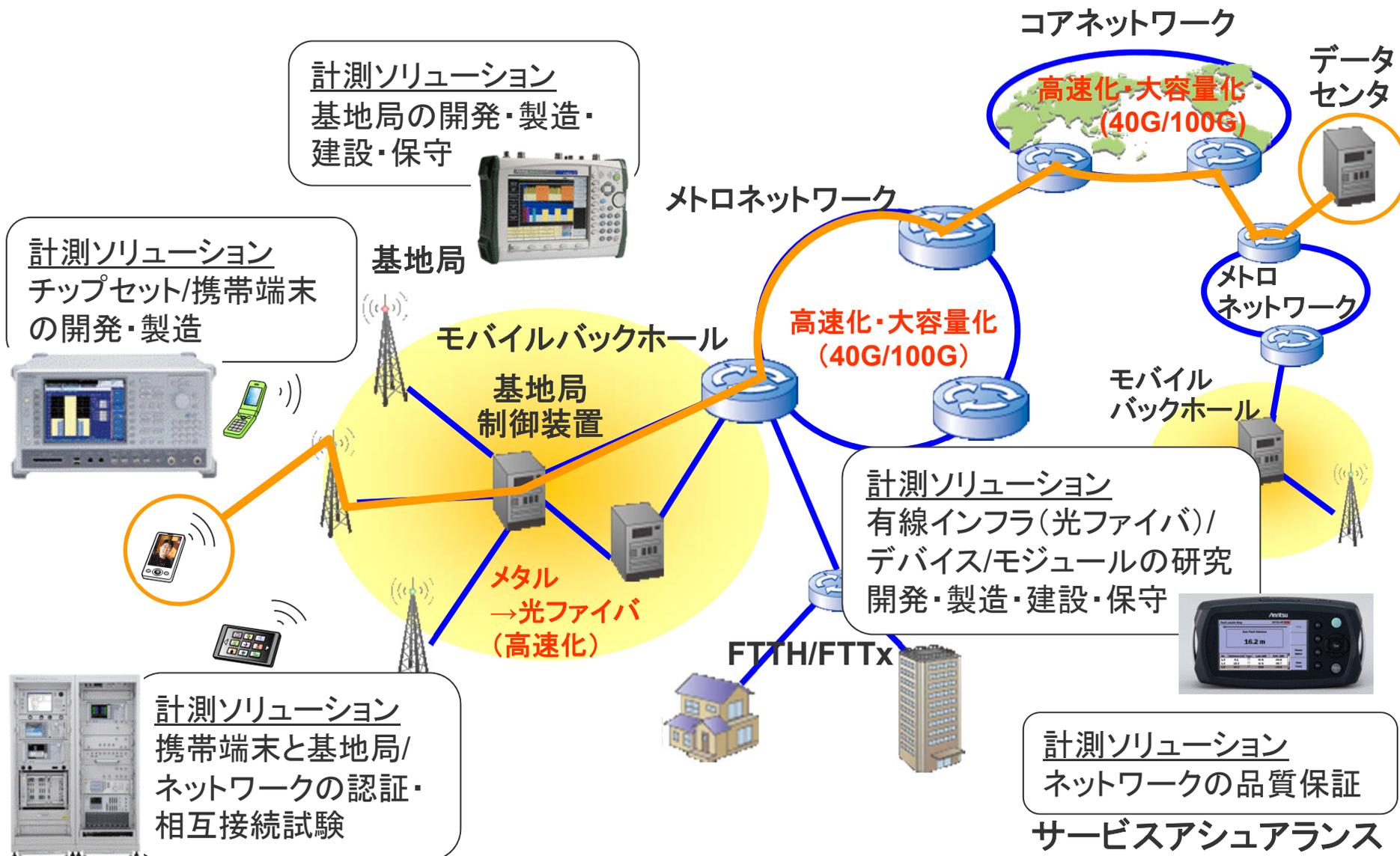
Appendix



Appendix (1-1) - モバイルブロードバンドの進展 -

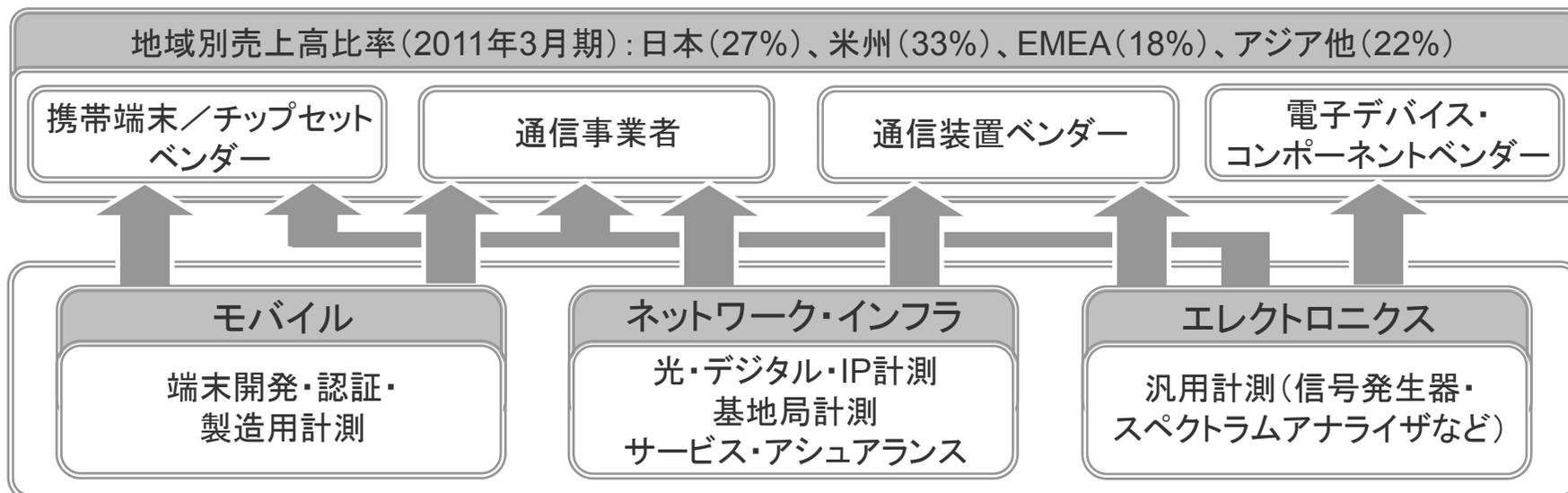


Appendix (1-2) - 計測事業 ビジネス領域 -

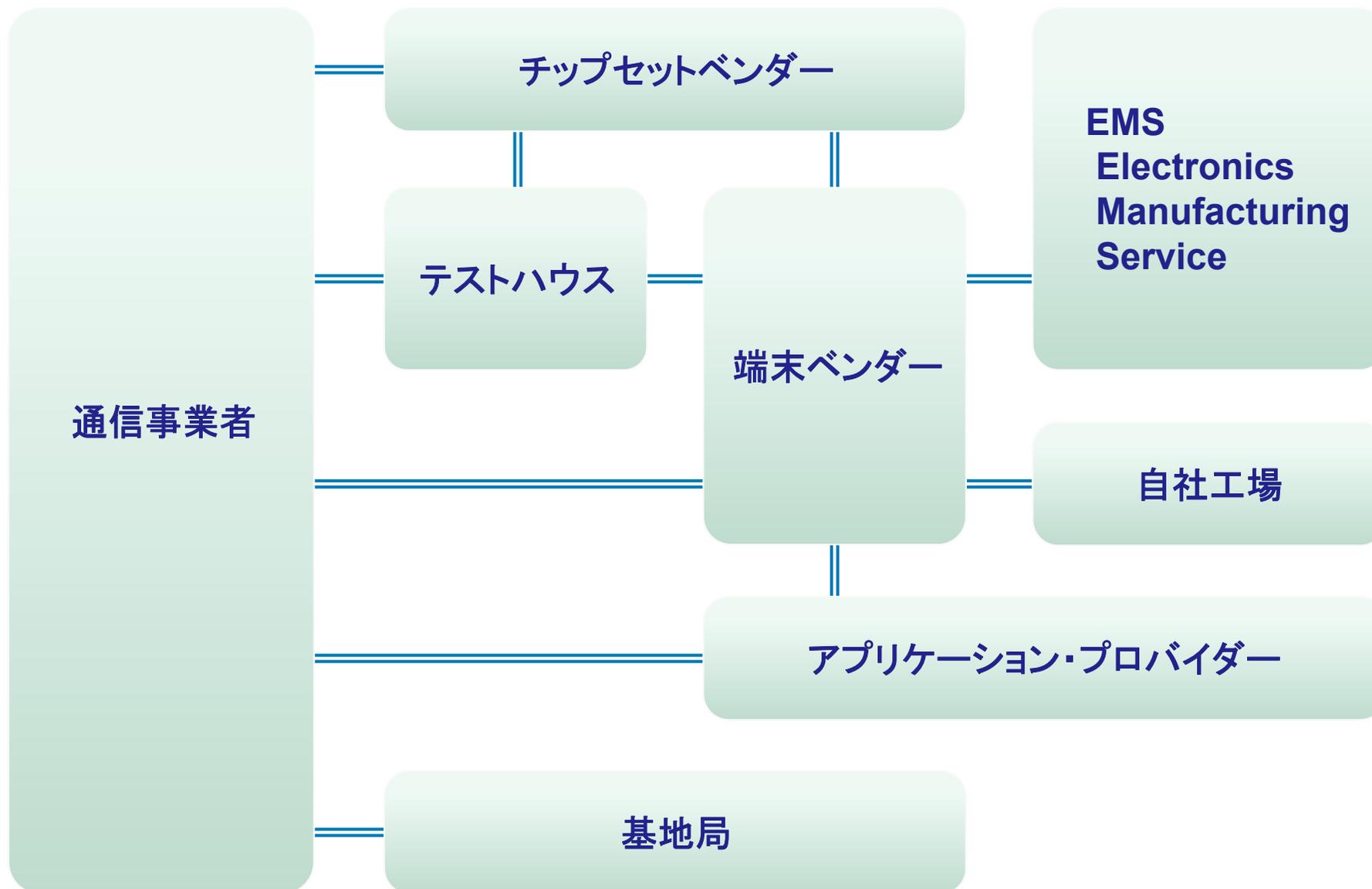


Appendix (1-3) - 計測事業 顧客とマーケットポジション -

	モバイル市場			ネットワーク・インフラ市場		エレクトロニクス市場	
	R&D	製造	保守	R&D	建設・保守	R&D	製造
フォーカス エリア	LTE (端末開発・ 認証試験)	3G/LTE スマートフォン	携帯端末の 修理・保守	40Gbps / 100Gbps 光伝送	無線基地局 光ファイバ敷設 ネットワーク 品質保証・管理	通信用電子部品 / モジュール (携帯端末 / タブレット端末 / カーエレクトロニクス / 家電など) 無線基地局	
主な顧客	携帯端末 / チップセット ベンダー	携帯端末 ベンダー EMS	通信事業者 携帯端末 ベンダー	通信事業者 通信装置 ベンダー	通信事業者 通信建設業者	電子デバイス / コンポーネント ベンダー、通信装置ベンダー、 携帯端末ベンダー など	
グローバル ポジション (当社推定)	LTE開発用 計測市場 シェア50%	3G携帯端末 製造用計測 市場 No.3	日本市場 No.1	光・デジタル 計測器 No.3	無線基地局用 ハンドヘルド 計測器 シェア70-80%	スペクトラムアナライザ、 信号発生器 No.3	



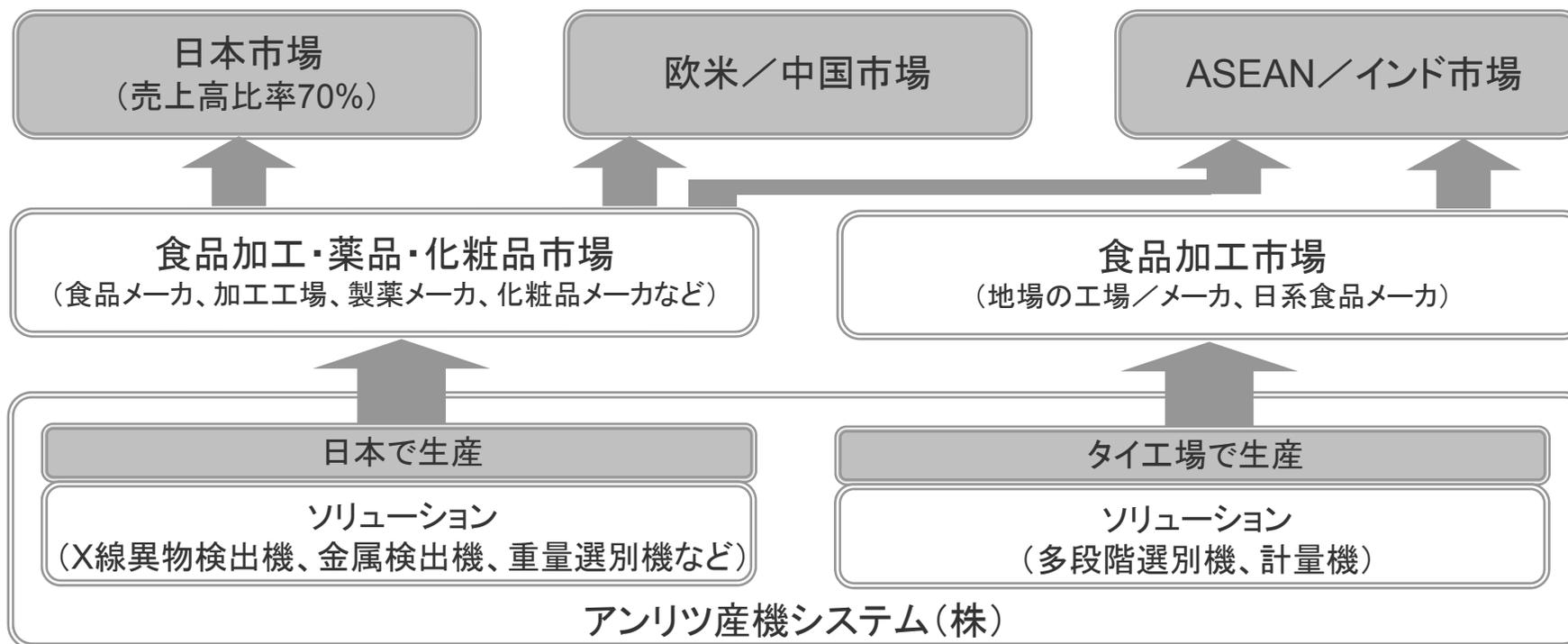
Appendix (1-4) - モバイル通信市場の業界構造とプレイヤー -



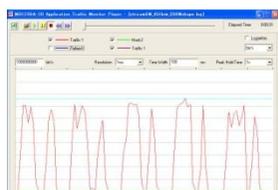
Appendix (1-5) - モバイル通信市場の主なプレイヤー -

通信事業者	AT&T, Verizon, T-Mobile, China Mobile, China Unicom, China Telecom, NTT DoCoMo, etc.
チップセット	Qualcomm, ST-Ericsson, Leadcore, Hisilicon, TI, Infineon, MediaTek, etc.
端末	Samsung, Apple, HTC, LG, RIM, Nokia, Sony Huawei, ZTE, k-touch, Longcheer, Fujitsu, NEC, Panasonic, etc.
EMS	Foxconn, Asus, BYD, Fosunny, Quanta, etc.
基地局	Ericsson, Alcatel-Lucent, Huawei, etc.

Appendix (2) - 産業機械事業 -



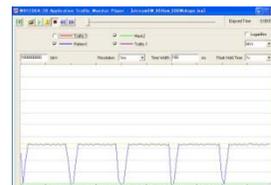
Appendix (3) - 情報通信事業 -



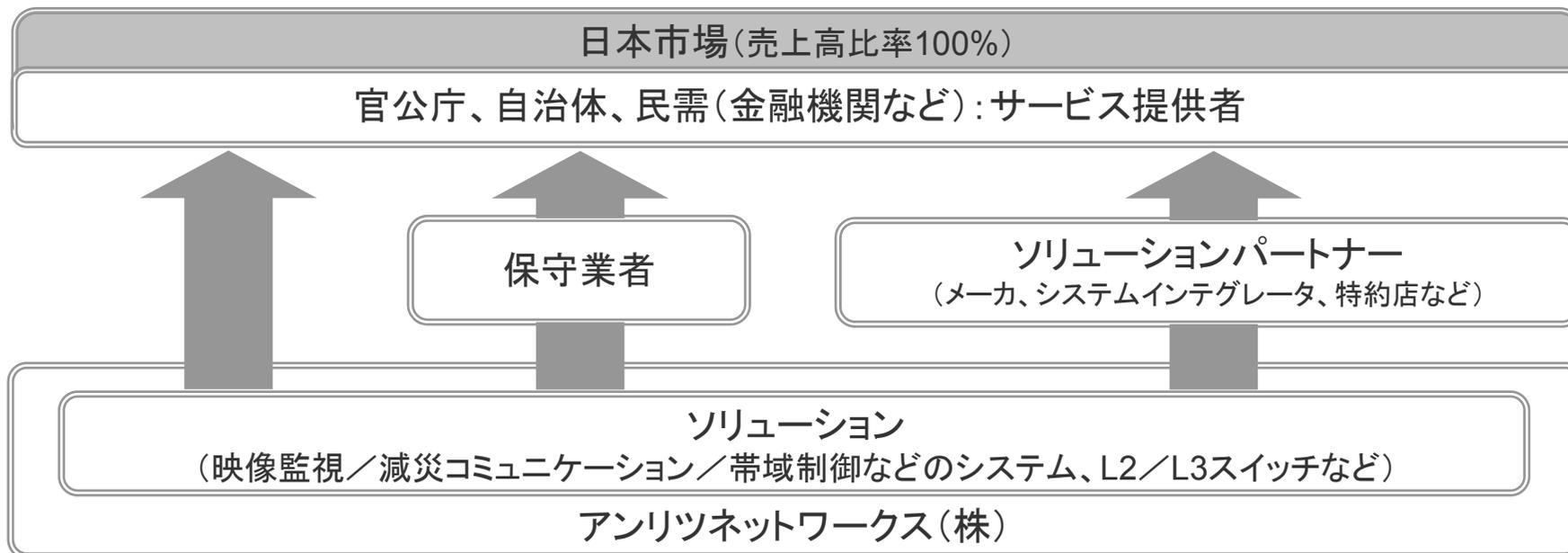
バーストラフィックによるパケットロス発生



信号の
平滑化

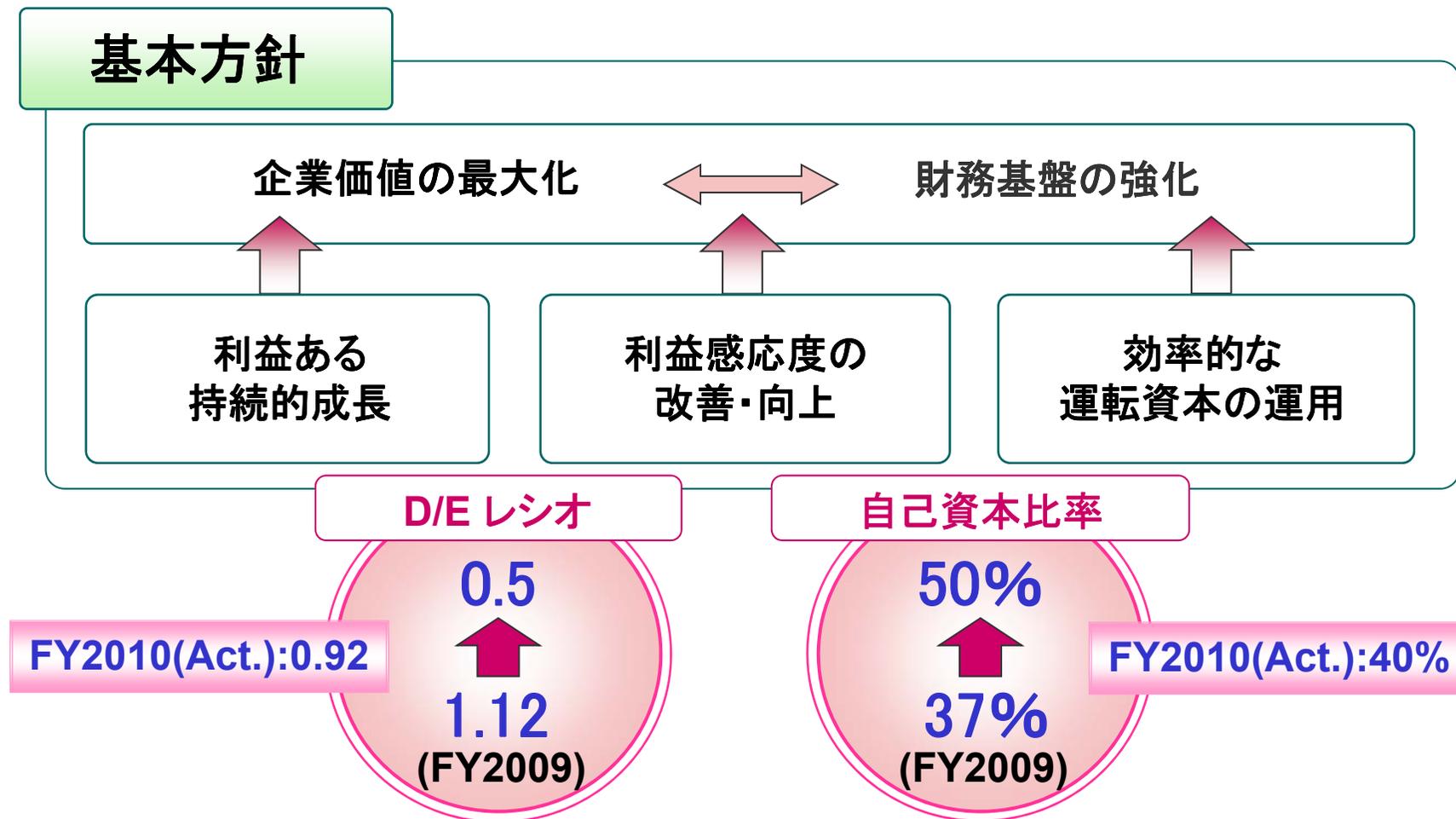


最適なトラフィックに制御しパケットロス解消



Appendix (4) - GLP2012 and Anritsu 120 : 財務戦略 -

資本効率経営を進め企業価値を向上



Appendix (5) - 配当について -

年間配当を8円 → 10円(うち、中間配当5円)
に増配

配当方針

株主の皆さまへの利益還元策として、連結当期純利益の水準に応じて、連結純資産配当率(DOE)を上昇させることを基本に、事業環境などの諸般の事情を総合的に考慮して決定しています。

Anritsu

Discover What's Possible™

